

秋播性を有する早生で収量の多い 通常アミロース含量小麦新品種候補「さとのそら」

関東東海地域は、1944年に育成された「農林61号」が主要品種として作付けされていますが、倒伏し易く栽培し難いことに加えて収量性が良くないことなど、問題を残しています。このため、広域適応性のある早生で多収な通常アミロース含量の品種「さとのそら」を育成しました。

☆技術の概要

1. 播性程度はIVで、茎立ちが遅く、出穂期・成熟期はともに3~4日早い。
2. 耐倒伏性は強く、収量は「農林61号」より多収である。
3. うどんこ病・コムギ縮萎病は“強”、赤かび病は“中”、穂発芽性は“難”である。
4. 製粉性は製粉歩留・ミリングスコアで優れる。アミロース含量・アミログラム特性は「農林61号」と同程度である。
5. うどん官能評価は、めん色でやや優れるが食感と同程度である。

表 さとのそらの特性

試験地	群馬県	
普及見込面積 (ha)	4,000	
品種名・系統名	さとのそら	農林61号
出穂期 (月日)	4.21	4.25
稈長 (cm)	85	99
子実重 (kg/a)	48.0	40.2
千粒重 (g)	37.7	35.1
製粉歩留 (%)	66.2	63.0
60%粉アミロース含量	29.4	29.1

表 うどん官能評価結果

試験地	育成地	
品種名・系統名	さとのそら	農林61号
色 (20)	15.3	14.0
外観 (15)	11.1	10.5
硬さ (10)	7.5	7.0
粘弾性 (25)	18.5	17.5
滑らかさ (15)	11.1	10.5
食味 (15)	10.7	10.5
合計 (100)	74.2	70.0

☆活用面での留意点

1. 温暖地に適し、群馬県、埼玉県、茨城県、栃木県において普及予定である。
2. 茎数を確保し易いため過繁茂にならないよう地域にあった適期播種、適正播種量に努める。
3. 粗タンパク質含量を確保するため、生育に応じた追肥を実施する。
4. 赤かび病抵抗性が“中”であるため、適切な防除に努める。
5. 需要者による品質評価を受けつつ作付推進を図る。
6. 詳細は群馬県農業技術センター(TEL:027-269-9125)へお問い合わせ下さい。

(作物研究所 企画管理室長 寺島一男)